

ビジネスの場で意外に悩みがちなのが自分の位置だ。商談の場はどこに座ればいいのか。エレベーター内の立ち位置は……。先輩や上司、訪問客に失礼のない振る舞いをするために、基本を知っておこう。

「会議室での席に座ればよいかかわからない」。人材開発支援会社ヒューマネックス(東京・港)の人財育成トレーナー、美月あきこさんは毎年、企業の新人社員研修でこうした質問を多く受けるという。

上座と下座は常識として知っておくべきだが、学校で教わるものではない。社会人になって徐々に身に付けた人がほとんどではないだろうか。その意味で新人が戸惑うのは当然。ベテランも自分の常識が正しいか基本を確認した方がよい。

状況に応じ配慮

では、実際に会議室や応接室では上座と下座はどう決まるのか。ルールは簡単。出入り口から最も遠い席が上座、最も近い席を下座とするのが基本だ。部屋の奥にある席

その位置 上座?下座?

は部屋全体を見渡せるので安心感があり、くつろげる。反対に出入り口近くは人や物の出入りで扉が開く。立場が下の人が率先して座るべきだろう。

基本をおさえた上で、

状況に応じた配慮をすることも大切だ。マナーコンサルタントの西出ひろ子さんは、眺めの良い窓が出入り口の反対側にある場合は、訪問客をもてなす意味で出入り口側を上座として勧めるのも一案と話す。「こちらの席の方が見晴らしが良いのでいかがですか、などと声をかければ気持ちが伝わるだろう(西出さん)。室内ではなく、エレベーターやエスカレーターなどの立ち位置に悩む人も多いようだ。上座と下座は、どう判断すればよいのだろうか。



下宣子さんによると、エスカレーターの場合、相手との視線の高さが上座と下座の基準になる。

上りのときは客に先に乗ってもらい、自分の視線が相手より低くなるようにする。逆に下りのエスカレーターでは先に乗って、客を上から見下ろさないようにするのが基本だ。下りのエスカレーターに先に乗るときは、「お先に失礼します」と一声かけると相手も戸惑わずにすむだろう。低い位置に立つのは視線を低くするだけでなく、相手が階段を踏み外すなどのアクシデントがあった際に、下から支え

エスカレーターにも上座・下座がある

の意味もある。

エレベーターはどうか。実は欧米から導入されたもので、立ち位置のマナーは欧米流。基本は「右上位」。出入り口を向いて右後方が上座で、操作ボタンの前が下座だ。操作盤は出入り口の右側にあることが多いので、下座は上座の真正面。来客などと2人で乗る場合は、上座の真正面に立つことになる。

ただし、操作盤の前で立ち方には気を付けよう。訪問客に尻を向けて立つのはマナー違反。肩を少し引いてお尻を向けないように斜めに立つと印象が良くなるはずだ。

思いやりが大切

エレベーターは乗り込む際にも注意が必要だ。すでに人が乗っているエレベーターに乗るときは、訪問客らに先に乗ってもらう。しかし、中にも誰もいない場合は先に入って扉が不用意に閉まらないように操作する。「心遣いとして、手でドアを押さえる習慣も身に付け

ておきたい」と美月さんは指摘する。

実はエレベーターの「右上位」というマナーは、やはり欧米由来の自動車にも応用できる。運転手がいる車なら、その後ろに当たる後部座席の右側が上座だ。後部座席の左側、後部座席の真ん中と続き、助手席が下座となる。

もちろん、中には「後部座席の奥まで進むのが面倒」「日差しが強い窓側は避けたい」という人もいる。この場合は、相手の意向を尊重し、下座に当たる席を勧めてもマナー違反にはならない。むしろこのケースから知ってほしいのは、上座や下座の決まりはあくまでも原則ではない、ということ。「相手が心地よいと感じる席でなければ上座とは言えない(西出さん)からだ。

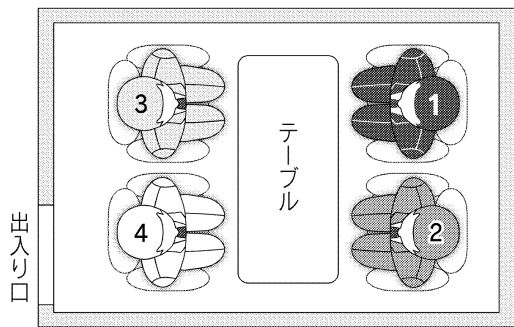
岩下さんは「マナー」とは思いやりの表現。相手を大切にすることが何より大切」と話す。上座・下座の基本を知った上で、臨機応変でスマートな振る舞いを目指したい。

会議室・エレベーターにも決まりあり

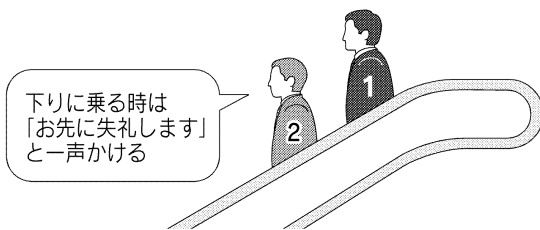
場所によって様々な上座と下座がある

(注) 1が上座。番号順に下位になる

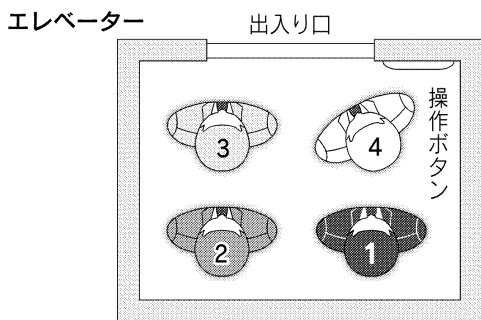
個室では出入り口近くが下座



エスカレーターは相手の視線が上になるように乗る



エレベーターと自動車は右奥が上座



タクシー・ハイヤー

